

(1) 県調査の結果を基にした実態調査とその分析

① 県調査のWeb報告書に示された課題について

小学校社会の評価の観点別正答率は、「平成26年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]Web報告書」⁽¹⁾に図1のように示されています。また、「平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]Web報告書」⁽²⁾には、図2のように示されています。

両年度とも評価の観点「社会的な思考・判断・表現」は、小学5年生、6年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られます。報告文によると、小学6年生においては、平成25年度調査から引き続き課題が見られていることが示されています。また、平成27年度の「社会的な事象についての知識・理解」は、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っています。

さらに、報告書には調査結果の分析（成果と課題）が示されており、本研究委員会はその中から平成26、27年度の課題を次のように整理しました。

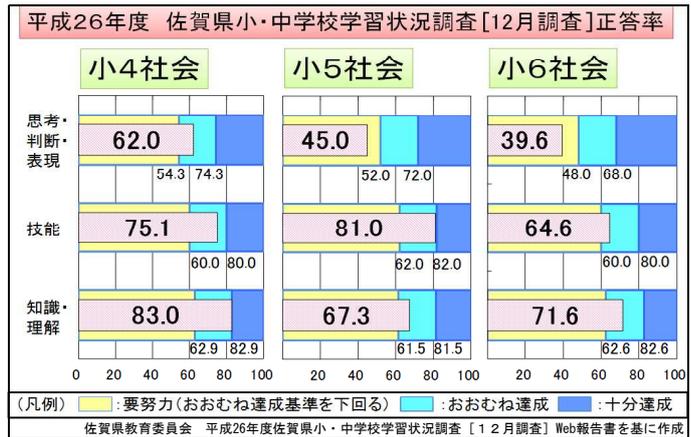


図1 平成26年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]小学校社会の評価の観点別正答率

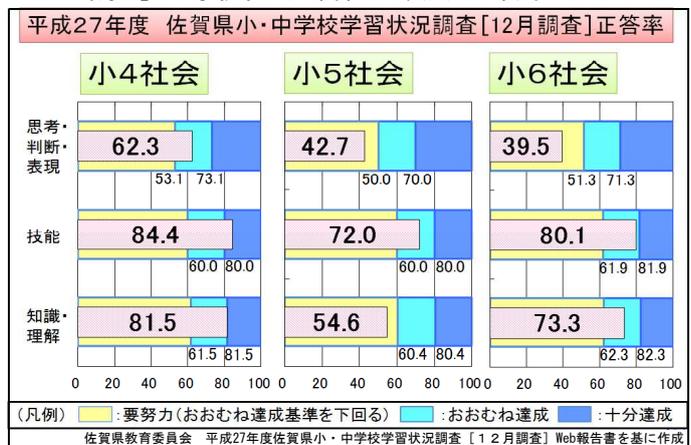


図2 平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]小学校社会の評価の観点別正答率

小学校社会科における課題

・社会的な思考・判断・表現

資料から読み取った情報を比較したり関連付けたりして、社会的な事象の特色や相互の関連、意味（目的、特徴、働き、役割、因果関係、条件など）を考え、表現すること。

・社会的な事象についての知識・理解

社会的な事象についての基礎的な知識を身に付けること。

これらの課題を解決するためには、次の3つの力を育てるよう授業を改善していく必要があると考えます。

課題の解決に向けて児童に必要な力

・社会科における思考力・判断力

もっている知識や調べて分かったことを根拠として社会的な事象の特色や相互の関連、意味を多面的、総合的に考える力

・社会科における表現力

習得した知識を活用して社会的な事象の特色や相互の関連、意味について分かったことや考えたことを説明したり、論述したりする力

・社会科における知識を身に付け、理解する力

思考や表現などの過程を通して、基礎的な知識を身に付けながら社会的な事象の特色や相互の関連、意味を理解する力

② 県調査を基にした児童の実態調査

前頁に示した課題の解決に向けて児童に必要な力を育てるためには、どのような手立てを講じればよいでしょうか。

本研究委員会は、個々の教職員が、児童の実態に応じた授業改善を行う必要があると考えます。そこで、児童の実態を詳細に知ることから始めることをお勧めします。児童がどのような思考・判断・表現に強く、どのような思考・判断・表現を苦手としているのかは、学校、学年、学級、児童によって違っていると考えるからです。

例えば、前頁に示した課題の解決に向けて児童に必要な力のうち、「もっている知識や調べて分かったことを根拠として社会的事象の特色や相互の関連、意味を多面的、総合的に考える力」においては、以下のような視点で実態を把握する必要があると考えました。

児童の実態を把握する視点例

- ・どのような知識をもっているか。（知識・理解）
- ・資料から必要な情報を読み取れるか。（資料活用の技能）
- ・複数の情報を結び付けて読み取れるか。（資料活用の技能）
- ・複数の情報を比べて、類似点や相違点に気付けるか。（比較する思考）
- ・複数の情報を結び付けて、予想したり、見いだしたりすることができるか。
（関連付けする思考）
- ・複数の情報をまとめて、予想したり、見いだしたりすることができるか
（総合する思考）
など

以上の考え方から、本研究委員会では、児童の実態を把握する方法として、学習状況調査の調査問題を基に実態調査問題を作成し、実態調査を行い、その解答を分析しました。

研究委員の所属校において、調査した例を紹介します。

ア 調査目的

実態調査問題の解答を基に、児童の反応率や誤答傾向を分析することで、児童の実態に応じた授業改善に向けて小学校社会科における課題及び授業改善の方向性を明らかにする。

イ 調査方法

- ① 過去の県調査の調査問題から県調査に見られた課題に関する問題を選定する。
- ② 児童の具体的な実態が分かるように、必要に応じて調査問題を改変する。
（例えば、選択肢の問題であれば、選んだ理由を記述させるなど）
- ③ 児童へは、調査問題と解答用紙とを別にして配付し、解答は解答用紙に記述させる。
- ④ 設問数に応じて調査時間を設定し（約3問で15分程度）、調査を行う。

ウ 分析方法

- ① 設問に対して、設問の趣旨、正答のために必要な具体的な力、学習指導要領における内容、評価の観点、正答の条件、関連する問題（基になった問題）を明らかにする。
- ② 正答のために必要な具体的な力を基に、解答類型を作成する。
- ③ 児童の解答を解答類型に当てはめ、児童の反応率や誤答を整理する。
- ③ 整理した児童の解答類型を基に、解答の傾向や誤答の思考過程を考察し、児童の課題や課題解決に向けて児童に必要な力の具体、授業改善の方向性等を明らかにする。

エ 実態調査、分析の例

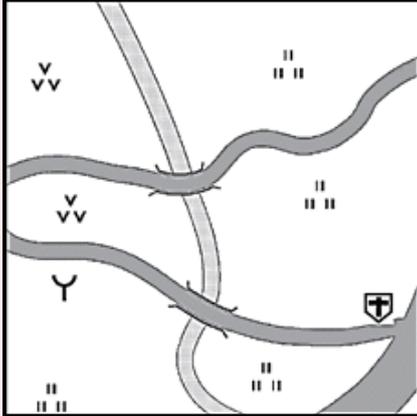
実態調査、分析については、小学3年生を対象に行ったA校とB校の例を示します。

○実態調査問題例（平成26年度【県調査】[12月調査] 4年 1-(2)を改変）

1 学校のまわりのようすについて、次の問いに答えましょう。

(2) 太郎さんは、地図記号を使って【地図B】を作りました。【地図B】のもとになった地図としてあてはまるものを、あとのアからエまでの中から1つえらんで、その記号を書きましょう。また、その記号をえらんだ理由（わけ）も書きましょう。

【地図B】



ア



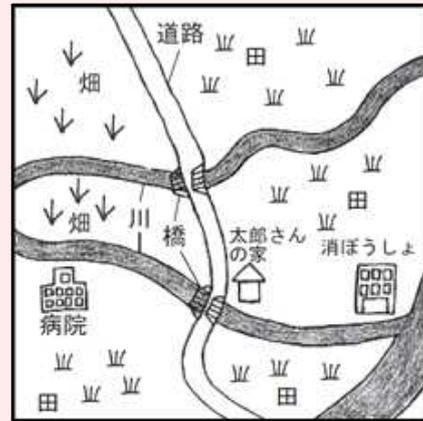
イ



ウ



エ



○実態調査結果の分析例（小学3年生）

●設問の趣旨

地図記号の知識を基に、実際の土地の様子に合った絵地図を選択し、その選択理由を適切に記述することができる。

●正答するために必要な具体的な力（…正答の要素、…必要な具体的な力）

- ・【地図B】の橋の地図記号に着目し、川と道路の位置を読み取る力
- ・消防署と病院の地図記号に着目し、消防署と病院の位置を読み取る力
- ・選択肢アからエを比較し、川と道路の位置関係、消防署と病院の位置関係の違いに気付き、2つの位置関係の違いを関連付けて、【地図B】に合った絵地図を考え、選択する力
- ・絵地図を選択した思考過程を説明する力

●学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕

内容(1) 身近な地域

自分たちの住んでいる身近な地域や市（区、町、村）について、次のことを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。

ア 身近な地域や市（区、町、村）の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物など

（内容の取扱い）内容(1)については、方位や地図記号について扱うものとする。

（解説）観察、調査した結果を地図に表したり地図を読み取ったりする際に必要となる方位や主な地図記号を理解し活用できるようにすること。

●評価の観点 社会的な思考・判断・表現（活用問題）

●関連する問題（基になった問題）

平成26年度【県調査】〔12月調査〕4年 1-(2)

十分達成	おおむね達成	県正答率	無解答率
75.0	55.0	69.1	0.50

●正答の条件

記号ウと解答し、次の①②の条件を全て満たしているものを正答とする。

- ①川と橋（道路）の位置について適切な理由を記述しているもの
- ②病院と消防署の位置について適切な理由を記述しているもの

※選択した理由については、記述式で問題に付加して調査しています。

○A校での調査における解答類型及び考察例

●解答類型（正答欄：◎…本調査での正答、○…平成26年度【県調査】[12月調査]では正答）

問題番号	解答類型	正答	反応率
1	(2) 1 【正答の条件】 ウと解答し、次の①②の条件を全て満たしているものを正答とする。 ①川と橋（道路）の位置について適切な理由を記述しているもの ②病院と消防署の位置について適切な理由を記述しているもの	◎ ○	29.6
	2 ウと解答しているが、川と橋（道路）の位置についてのみ理由を記述しているもの	○	3.7
	3 ウと解答しているが、病院と消防署の位置についてのみ理由を記述しているもの	○	44.5
	4 ウと解答しているが、川と橋（道路）の位置と病院と消防署の位置を記述していないもの。	○	3.7
	5 アと解答し、病院と消防署の位置についてのみ理由を記述しているもの		14.8
	6 イと解答し、川と橋（道路）の位置についてのみ理由を記述しているもの		3.7
	9 上記以外の解答		0
	0 無解答		0

●A校での調査結果の考察

県調査の設問では、ウを選択できれば正答である。正答率は、解答類型の1から4の反応率の合計81.5ポイントとなる。県調査の設問で設定された「十分達成」の基準が75.0であったことから十分達成していると考えられることができる。

「活用」に関する問題であることから、どのような知識や見方が「活用」されたのかを詳細に分析するために、実態調査の設問に「また、えらんだ理由（わけ）も書きましょう」を付加して調査を行った。

その解答について、設問の趣旨に示す正答のために必要な具体的な力を基に、解答類型を作成し、解答の記述を整理した。その結果、**【正答の条件】**を全て満たす解答類型1の反応率は、29.6ポイントであったのに対して、**【正答の条件】**を全て満たすことができなかった解答類型2から4の反応率は、51.9ポイントであった。ウを選択することができることから、児童は、**【地図B】**と選択肢アからエとをそれぞれ比較した際に、共通点や相違点に気付くことができていると考える。しかし、複数の共通点を関連付けて考えることや気付いたことや考えたことを説明することに課題があると考えられる。

授業において、分かったことを関連付けて考えたり判断したりさせ、関連が分かるキーワードを用いた説明や表現をさせるなどの手立てを取り入れて、表現力を育成する必要があると考える。

誤答の傾向を見てみると、解答類型2、3のように、正答の条件①もしくは②のみを書いているものが、48.2ポイントである。複数の情報を関連付けて理由を表現することに対して、本学級の児童は難しさを感じていることがうかがえる。また、正答の条件①か②のどちらかだけでしか判断できていないことも考えられる。

授業において、複数の情報を関連付けた表現をさせ、関連付ける思考力を育てる手立てを取り入れていく必要があると考える。

○B校での調査における解答類型及び考察例

●解答類型（正答欄：◎…本調査での正答、○…平成26年度【県調査】[12月調査]では正答）

問題番号	解答類型		正答	反応率	
1	(2)	1	【正答の条件】 ウと解答し、次の①②の条件を全て満たしているものを正答とする。 ①川と橋（道路）の位置について適切な理由を記述しているもの ②病院と消防署の位置について適切な理由を記述しているもの	◎ ○	16.4
		2	ウと解答しているが、川と橋（道路）の位置についてのみ理由を記述しているもの	○	9.1
		3	ウと解答しているが、病院と消防署の位置についてのみ理由を記述しているもの	○	5.4
		4	ウと解答しているが、川と橋（道路）の位置と病院と消防署の位置を記述していないもの。	○	0.0
		5	ウと解答しているが、理由が記述できなかつたり明確でなかつたりするもの	○	27.3
		6	アと解答し、病院と消防署の位置についてのみ理由を記述しているもの		5.5
		7	イと解答し、川と橋（道路）の位置についてのみ理由を記述しているもの		1.8
		9	上記以外の解答		29.1
		0	無解答		5.4

●B校での調査結果の考察

県調査の設問では、ウを選択できれば正答である。正答率は、解答類型1から5の反応率の合計58.3ポイントとなる。県調査の設問で設定された「十分達成」の基準が75.0、「おおむね達成」の基準が55.0であったことから課題があると考ええる。

「活用」に関する問題であることから、どのような知識や見方が「活用」されたのかを詳細に分析するために、実態調査の設問に「また、えらんだ理由（わけ）も書きましょう」を付加して調査を行った。

その解答について、設問の趣旨に示す正答のために必要な具体的な力を基に、解答類型を作成し、解答の記述を整理した。その結果、【正答の条件】を全て満たす解答類型1の反応率は、16.4ポイントであったのに対して、【正答の条件】を全て満たすことができなかった解答類型2から5の反応率は、41.9ポイントであった。ウを選択することができることから、解答類型1から5に含まれる児童は、【地図B】と選択肢アからエとをそれぞれ比較した際に、共通点や相違点に気付くことができていると考える。しかし、複数の共通点を関連付けて考えることや気付いたことや考えたことを説明することに課題があると考えられる。

解答類型6や解答類型9の誤答内容を見ると、病院と消防署の位置やその片方の位置に触れることはできたものが多い。また、解答類型7の誤答内容からは、川と橋のうち、片方の位置について触れることができたものであった。これらのことから、複数の資料から、1つの共通点を読み取ることはできても、複数の共通点を読み取ることに課題がある児童もいることが分かった。また、地図記号を単独の記号として記憶しており、地図から土地の様子を読み取るために「活用」するまでには至っていないことが分かった。知り得た知識や技能を「活用」させる手立てを授業に取り入れていく必要があると考える。

以上のことから、授業では、児童のそれぞれの見方や考え方や友達の見方や考え方を比較させ、共通点を探させたり、違いを見付けさせたり、どちらがよいかを考えさせたりする問いかけや活動を取り入れていく必要があると考える。

このようにして、課題の解決に向けて児童に必要な力について、各校の児童の実態に応じて明らかにすることで、授業改善の方向性が整理されます。本研究では、次頁のように整理しました。

課題の解決に向けた授業改善の方向性

小学3年生では

[【実践事例1】](#) [【実践事例2】](#)

- ・分かったことを関連付けて考えたり判断したりさせ、関連が分かるキーワードを用いた説明をさせるなどの手立てを取り入れて、表現力を育成する。
- ・自分の考えをもたせたり、考えをまとめさせたりする問いを設定し、目的をもって地図や資料を読み取る経験を積ませる。その際、児童が問いについて考える時間を十分確保する。
- ・児童が話したり、書いたりする活動の際に、児童の表現について、例を示したり、称賛したり、表現方法を考えさせたりする手立てを取り入れる。
- ・児童のそれぞれの見方や考え方を、友達の見方や考え方と比較させ、共通点を探させたり、違いを見付けさせたり、どちらがよいかを考えさせたりする問いかけや活動を取り入れる。

小学5年生では

[【実践事例3】](#)

- ・資料を正しく読み取る活動において、児童の予想を基に情報を読み取らせ、児童が段階的に情報を関連付けて思考を深めていくことができるようにする。
- ・児童の身近な立場から段階的に様々な立場に立たせることによって、社会的事象を多面的・多角的に見て考えることができるようにする。具体的には、視覚的に複数の視点や立場があることに気付かせる板書や発問を工夫する。

小学6年生では

[【実践事例4】](#) [【実践事例5】](#) [【実践事例6】](#)

- ・調べて分かったことや考えたことを基に、社会的事象の意味を総合的に理解させる。
- ・人物の業績や事象について調べた情報を整理し、総合的にその意味について考える学習を単元に位置付ける。
- ・1つの資料から「分かること」と「考えられること」を区別させた読み取りの指導から、「どのような意味があるのか」や「なぜそのようなことをしたのか」を考えさせる指導、複数の資料を使つての指導へと段階的にスモールステップの指導を行う。
- ・単元を通して、複数の資料から分かることを使って、学習問題に対する考えを追究させることで、自分の考えを論述する力（表現力）を育成する。
- ・グラフの見方の再確認と何を問うているのかを児童に問い返す指導を取り入れる。
- ・根拠を基に自分の考えを説明する力が付くようにする手立てを取り入れる。

※個別に取り入れた具体的な手立てについては、各実践事例の単元の指導計画に示しています。

詳細は、上記の【[実践事例〇](#)】をクリックしてください。（新しいPDFが開きます。）

[実践事例一覧は、こちらをクリックしてください。（本研究のサイトマップにリンクしています。）](#)

引用文献

- (1) 佐賀県教育委員会 『平成26年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]結果報告（社会科）』
平成27年2月 p. 37, p. 39, p42
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/scholastic_achievements_analysis/H26_12_Webreport_center/documents/h26_12_shakai.pdf
- (2) 佐賀県教育委員会 『平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]結果報告（社会科）』
平成28年2月 p. 46, p. 48, p50
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/scholastic_achievements_analysis/H27_12_Webreport_center/documents/H27_12_shakai.pdf